

精密工学会賞 第3回 (2007年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 森脇 俊道 氏

森脇俊道氏は、生産加工・生産システムの分野において世界的な研究者であり、同氏が行ってきた研究は、知的生産システム、工作機械の動剛性および熱変形解析、切削加工の高度化など多岐にわたっている。最近では、超精密加工の高度化と超精密加工機の要素開発に貢献し、多大な成果を挙げている。

また、精密工学会では総合生産システム専門委員会の委員長、関西支部長、副会長、理事、監事など要職を歴任し、学会活動の活性化にも貢献してきている。国際的には、生産加工の分野において権威のある CIRP (国際生産加工研究会議) で、日本で初めて STC-M (機械部門委員会) の委員長を、さらに神戸で開催された 2006 CIRP General Assembly の実行委員長を務めるなど、世界的な研究リーダーとして活躍してきた。さらに、兵庫県や神戸市を中心に、産業振興やものづくり推進のための各種委員を歴任するなど、産業界からもその功績が高く評価されている。

平成 19 年 3 月に神戸大学を定年退職し、現在は摂南大学教授としてエンジニアの育成に尽力されているが、(財)神戸市産業振興財団理事長としても、地域経済・産業の発展のために力を注いでいる。

以上のように、森脇俊道氏は研究業績、精密工学会・モノづくりへの貢献、地域や産業界への功績のいずれの観点からも高く評価されるとともに、生産加工・生産システム・超精密加工分野に対する工学的・工業的な貢献は極めて大である。

1968 年 京都大学大学院工学研究科修了

同年 神戸大学工学部奉職

1985 年 同大学工学部教授

2007 年 同大学定年退職 同名誉教授

同年 摂南大学工学部教授, 神戸大学名誉教授

精密工学会フェロー, 工学博士